

深い学びにつなげるために（優先順位を問う）

育成する資質・能力における思考力，判断力，表現力等に関わる部分として，中学校社会科目標には下記のように明記されています。

中学校社会科の目標より

- (2) 「社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。（下線部筆者）

今回の学習指導要領改訂を受けて，他者と協働しながら社会への関わり方を考える社会科において，「自分に何ができるか」「自分たちはどうすればよいか」を選択・判断する学習を，より一層大切にしていける必要があります。前回，「議論する場の育成」というテーマで記載しましたが，今回は「優先順位を問う」ことに特化した取組をまとめてみました。

これまでの授業では，どちらかという児童生徒が「自分たちにできること」を意思決定することで終わっている授業が多いのではないのでしょうか。それも大切ではありますが，答えが一つではない社会科にとって，解決策の優先順位を考えることで，何を重視すべきかより深い学びにつながります。（ランキング手法とも言う）

優先順位を考える展開はさまざまな社会的事象で生かすことができます。

I 対策の優先順位を問う

- 1 ごみを減らすために何から取り組むべきか（小学校4年）

例 分別の徹底，エコバックの使用，フリーマーケット 等

- 2 節水のために給水量を減らすため，取り組む順番は（小学校4年）

例 生活用水，農業用水，工業用水 等

- 3 少子化を解決していくために，どの対策を優先させたらよいだらう

（中学校3年 公民）

例 保育所を増やす，出産後も働き続けることができる制度の構築，地域における子育て支援 等

類似 アフリカを支援するには，どの政策を優先すべきか（中学校1年 地理）
○○町を活性化するには，どの政策を優先すべきか（中学校3年 公民）



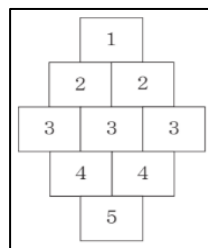
II その他

1 江戸幕府を安定させた政策としてどれが一番有効だったか？（中学校2年 歴史）

例 参勤交代 鎖国政策 身分制度 等

2 自由の重要度で高いものは？（中学校3年 公民）

例 思ったことを話せる自由 やりたい仕事に就く自由
好きな食べ物を食べる自由 住む場所を選べる自由 等



ダイヤモンドランキング

ダイヤモンドの形にランキングをまとめる応用型もあります。

どれも自分の解決策の中に他者の考え（考え方の視点）を取り入れることとなります。その結果、解決策の再検討につながり、より深い社会への関わり方へつながることが期待されます。また、班ごとの活動を取り入れることで理由を述べ合うことが必然的に生まれます。さらに、ICTの活用により各グループの考えを一覧にすることで、学級全体での交流も生まれます。

優先順位を問うことが「主体的・対話的・深い学び」につながり、新たな解決策にも発展すると言えます。

まとめ

「優先順位を問う」ことにより



- ① 他者との見方の差異に気づき、協働的な学びにつながる。
- ② 班ごとに優先順位を考えさせることで、主体的な学びにつながる。
- ③ 他の班と理由を交流することで、さらに考えの深まりが期待できる。

※ 内部情報（単元の学習内容等）を蓄積させておくことも重要となる。



今回の学習指導要領の改訂では主権者教育の重要性が取り上げられています。選挙とは政策等の優先順位を問う場面と言えるので、優先順位を問う単元構成は主権者教育にもつながるものであると言えます。